

2015 年度 センター試験 化学基礎 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 2科目で 60分

大問数・解答数	大問数 : 2 題	解答数 : 14 問
<p>総評</p> <p>全体的に基本及び標準的な問題が多く、特に難易度の高い問題の出題はなかった。問題数は適当であるが、1科目を30分と仮定すると時間は十分に足りたと思われる。計算問題も反応式の係数決定の問題を含めて4題であり、解きやすい問題であった。いろいろな物質の名称と化学式を覚え、基本的な知識と計算をしっかり身につけた受験生にとっては、単純なミスをしないうり高得点が可能であると思われる。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	単体と化合物 電子配置 三態の状態変化 電子式 分子の極性 化学結合 身の回りの物質	25点	全体的に基本的な問題であるが、問1や問7がミスしやすい問題である。 問4 XとZを異なる元素と考えてしまうと、すぐには正解にたどり着かないかもしれない。 問7身の回りに存在する物質の性質と製法に関する正誤問題であり、鉄とアルミニウムの製錬法まで学習していないとやや迷うかもしれない。
第2問	物質質量 反応式の係数 水溶液の濃度 酸塩基の定義 塩の液性 酸化数 変化量の計算	25点	問1や問7の計算問題と問5がやや間違いやすい問題である。 問1 同温同圧では、気体の体積は物質質量に比例することに気づけば速く計算できる。 問5 液性とpHの大きさの関係に注意すること。 問7 グラフの正確な読み取りと反応式から量的関係をつかんで計算すれば、特に難しくない。